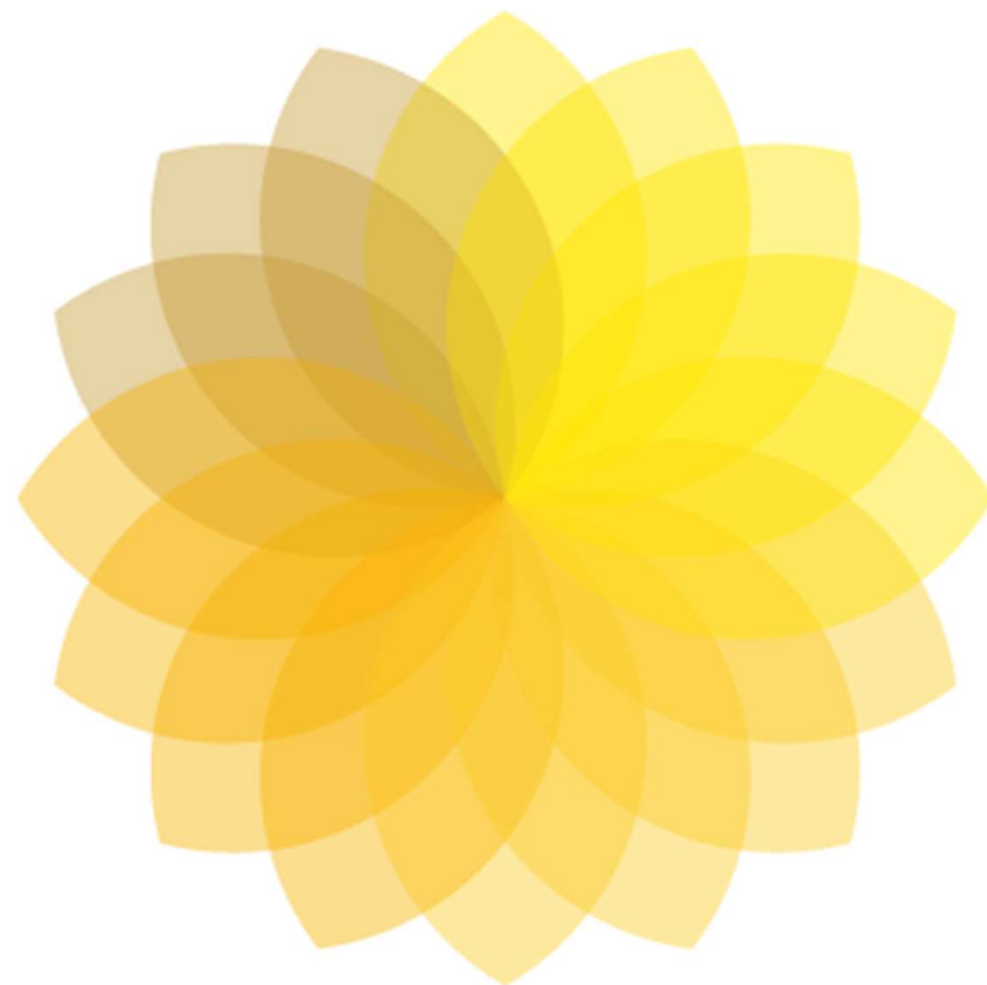


2020年3月期 中間期 決算説明資料

2019年10月31日



売上高は伸長、営業利益は暫定的なコストアップによる減益

単位：百万円

	19/3月期 中間期	20/3月期 中間期	前年同期比増減	
			金額	増減率
売上高	29,438	30,399	961	3.3%
営業利益	2,063	1,590	△ 473	△ 22.9%
経常利益	2,006	1,545	△ 461	△ 23.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,239	930	△ 309	△ 24.9%

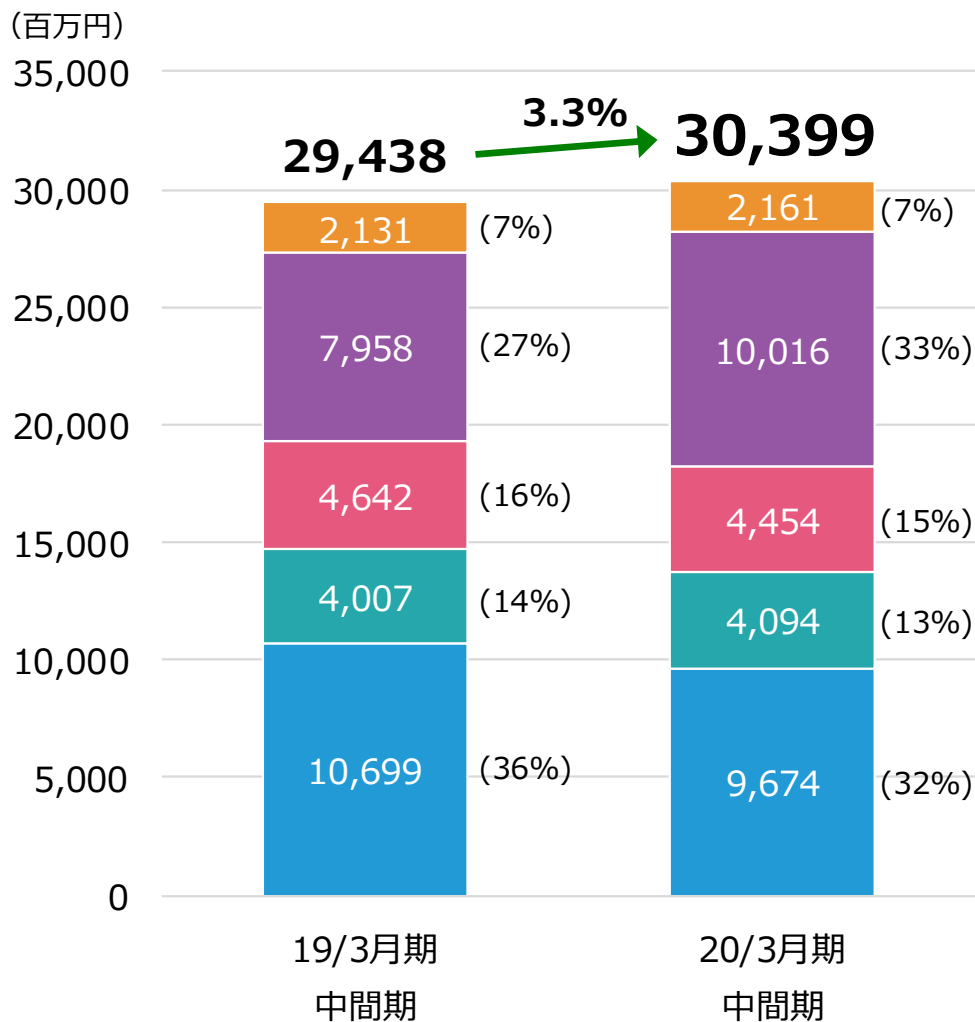
増収

売上高:機能材料セグメント IT・電子材料用途が顕著に伸長

減益

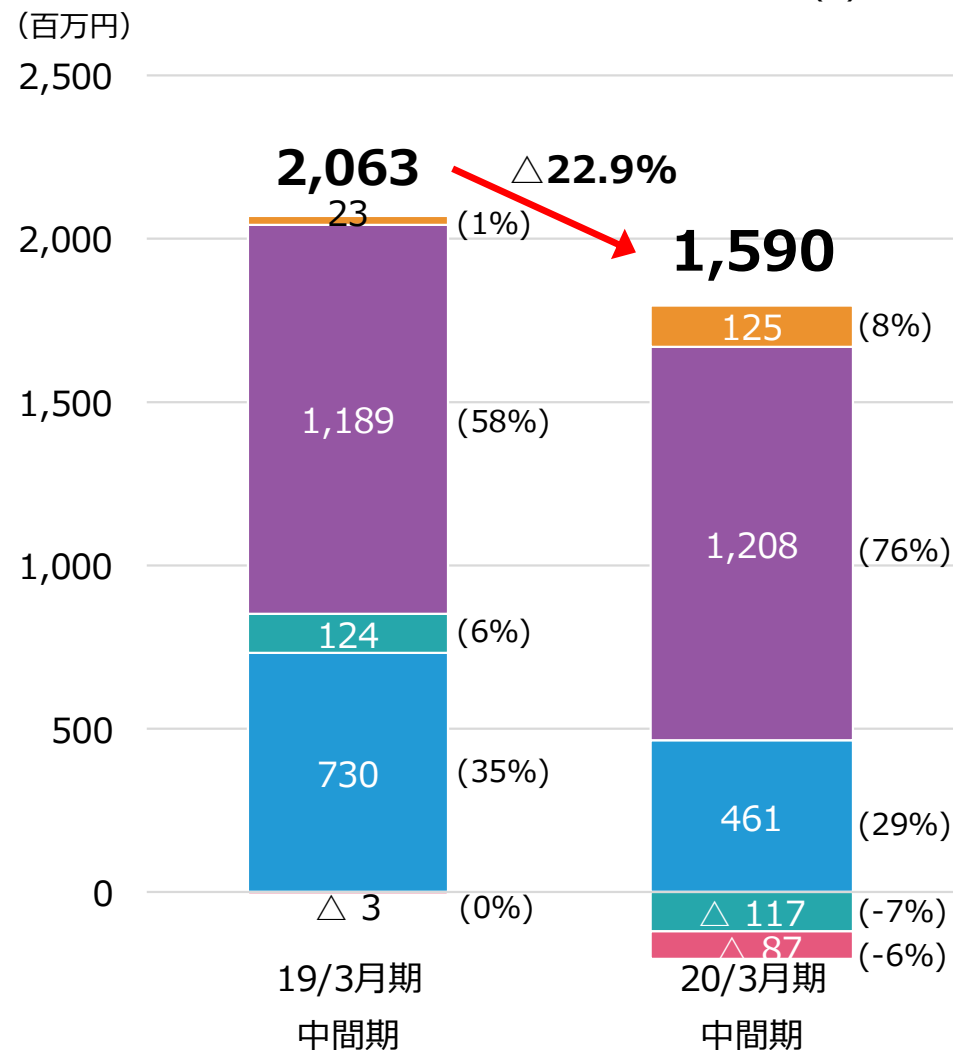
営業利益：IT・電子材料用途の暫定的増産体制を敷いたことによるコストアップが主因

売上高



営業利益

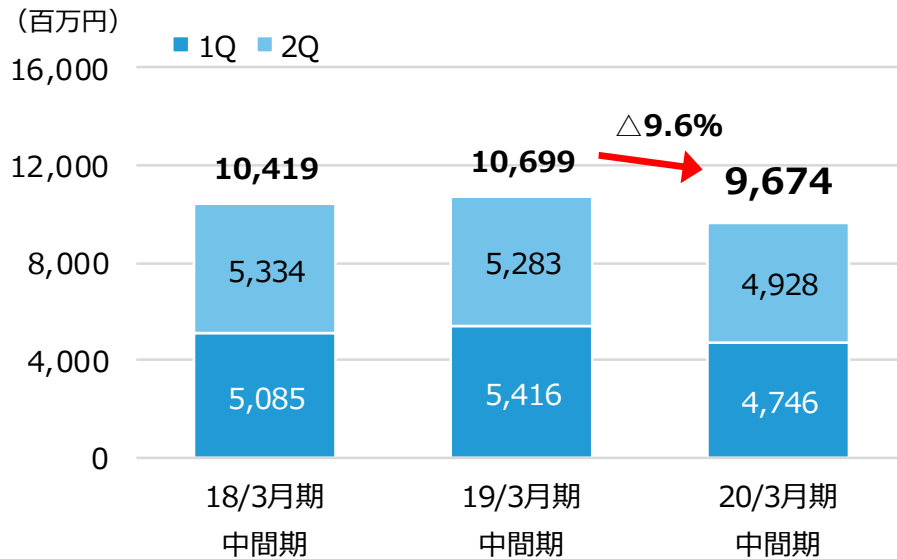
() : 構成比



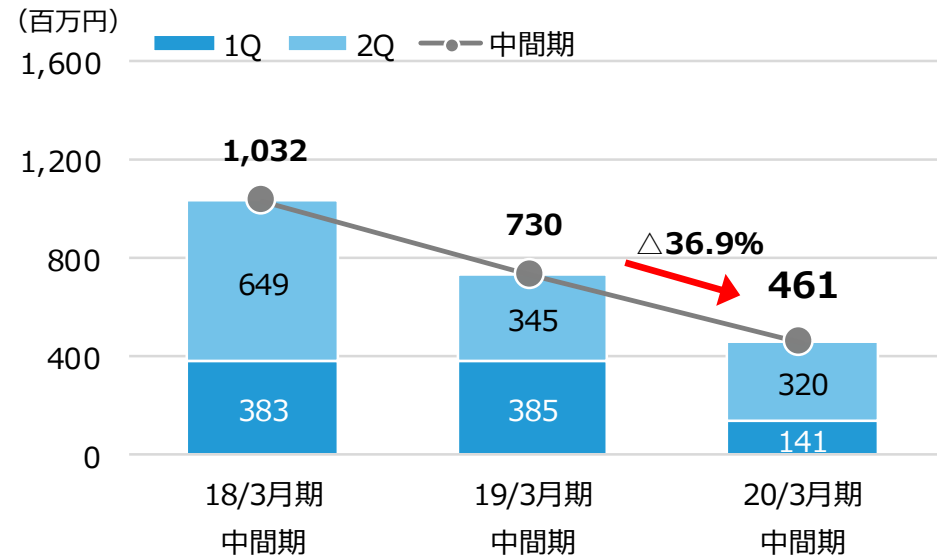
■ 界面活性剤 ■ アメニティ材料 ■ ウレタン材料 ■ 機能材料 ■ 電子デバイス材料

1909年の創業以来、高機能界面活性剤を提供している事業です。

売上高



営業利益



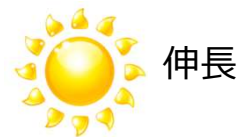
売上高：総じて低迷

- IT・電子材料用途は伸長
- ゴム・プラ用途やや低調に推移、機械・金属、塗料・色材用途はやや低迷
- 石けん・洗剤用途は低迷

営業利益：減益

- 石けん・洗剤用途を中心とした売上高の低迷

IT・電子材料用途



伸長



石けん・洗剤用途



低迷



塗料・色材

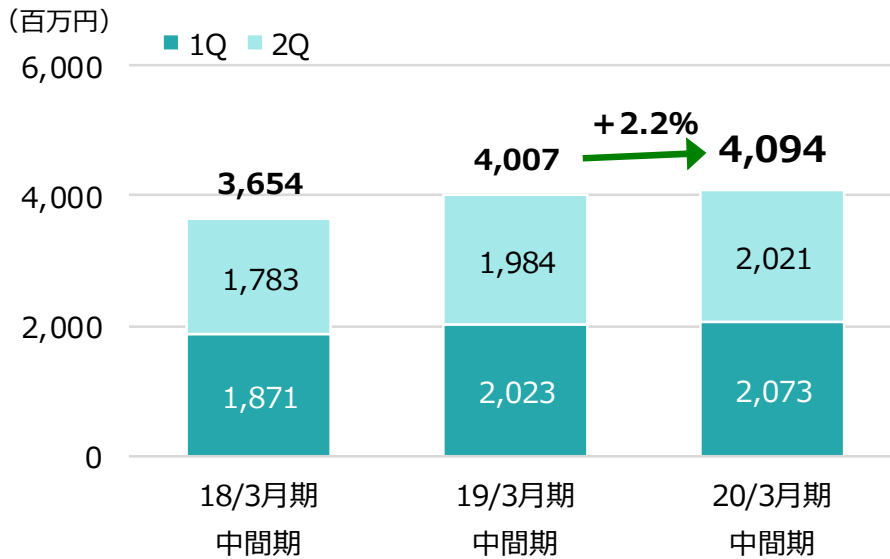


やや低迷

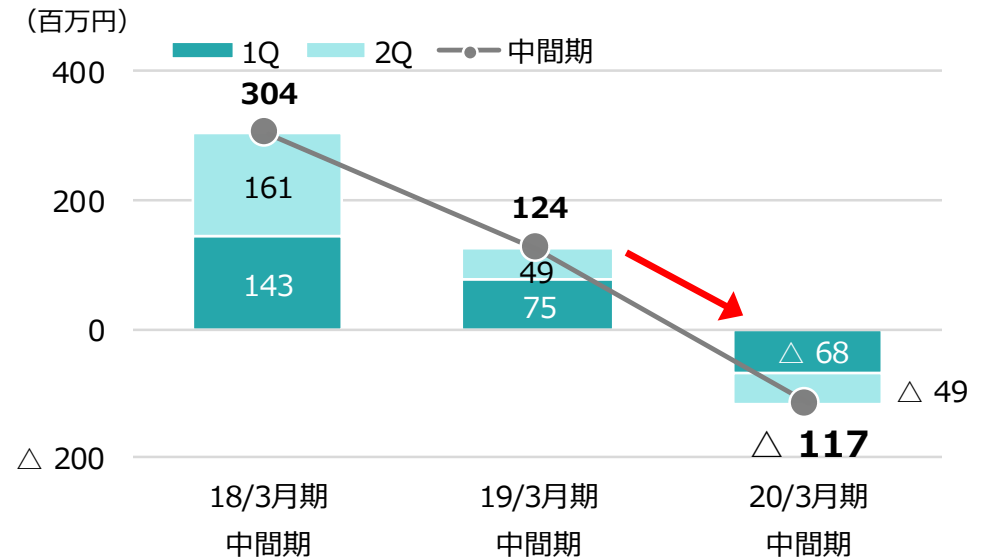


生活環境において快適性を求める材料や周辺応用技術を提供している事業です。

売上高



営業利益



売上高：好調に推移

- SEは香粧品、食品用途がやや低調に推移
- セルローズ系高分子材料は医薬品用途が順調に推移

営業利益：営業損失

- 海外向けSEの売上高がやや低迷
- ライセンス 2社の「のれん」償却負担増

ライフサイエンス



香粧品用途

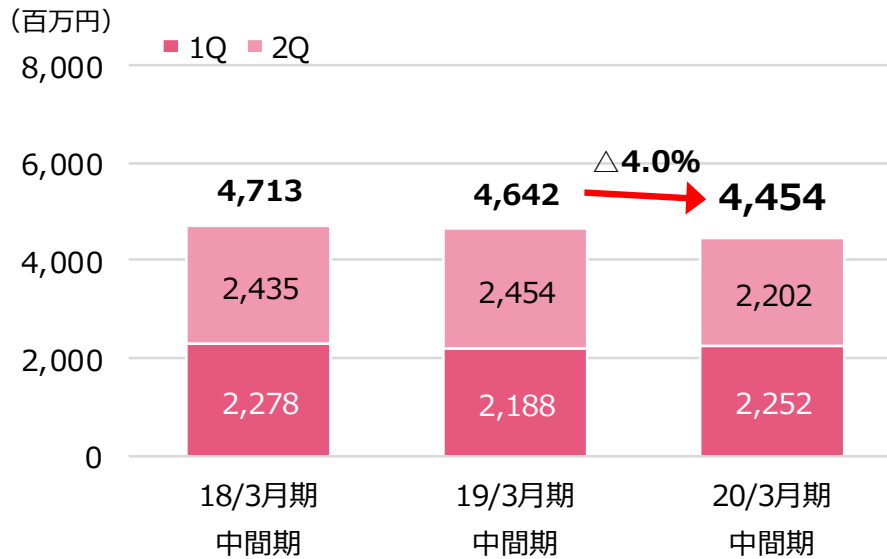


食品用途

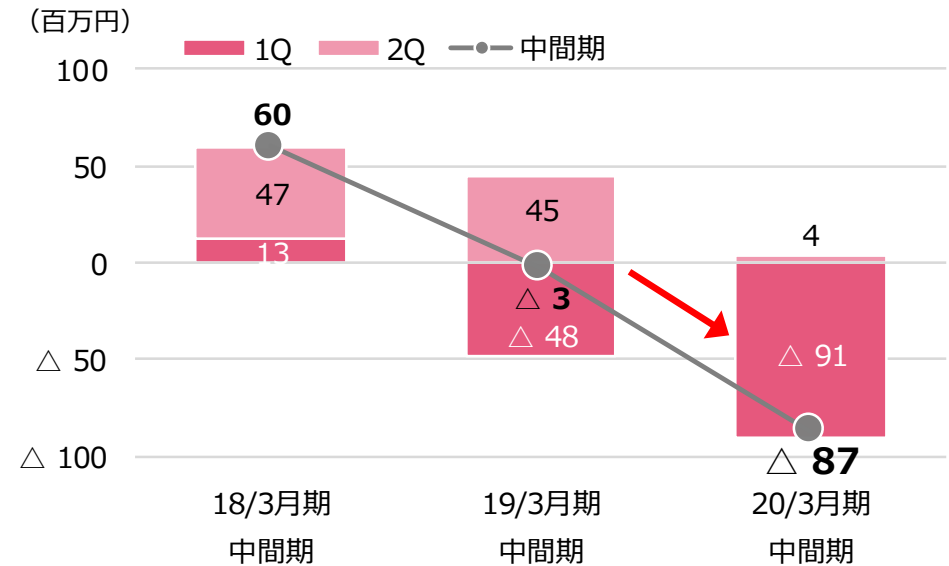


土木・建築材料、塗料、接着剤、電気絶縁材料などウレタン用原料を提供している事業です。

売上高



営業利益



売上高：やや低迷

- 土木用薬剤は好調に推移
- 合成潤滑油、土木・建築用材料は低迷

営業利益：営業損失

- 合成潤滑油や土木・建築用材料の売上高が低迷

土木・建築用途



低迷



土木用薬剤:岩盤固結



好調に推移



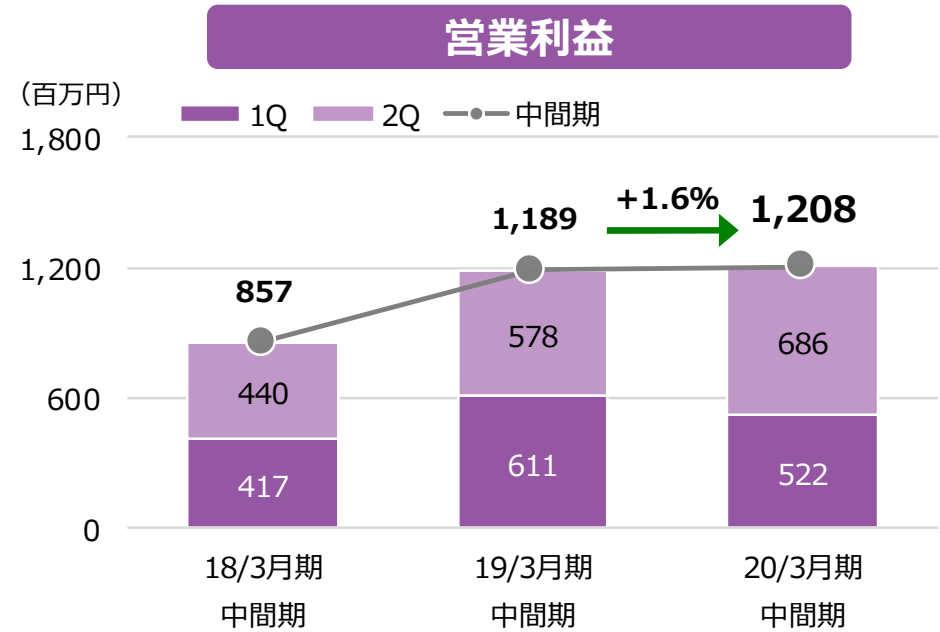
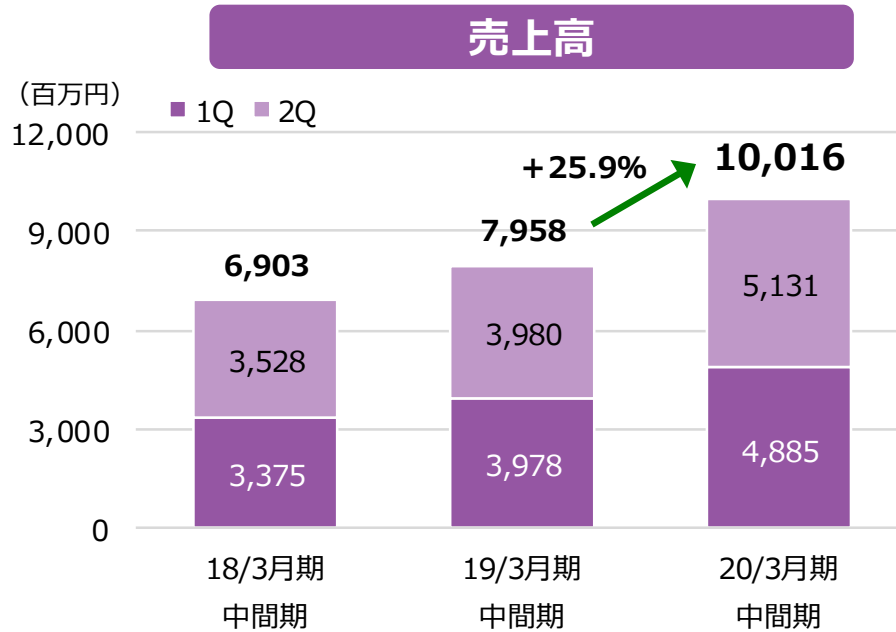
合成潤滑油



低迷



家電製品や生活の必需品用途に、難燃剤、光硬化樹脂や水系ウレタン樹脂などの製品を提供している事業です。



売上高：顕著に伸長

- IT・電子材料用途が国内外とも顕著に伸長
- 難燃剤は国内はやや低迷、海外は低迷

営業利益：増益

- 臭素系難燃剤の原料価格高騰
- IT・電子材料用途の暫定的増産体制によるコストアップ

電子材料用途



顕著に伸長



プラスチック用難燃剤

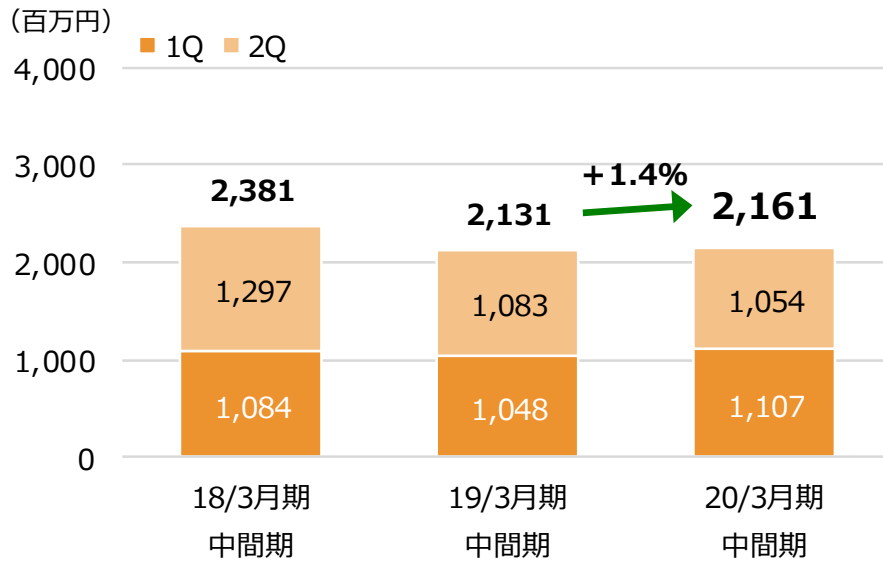


やや低迷

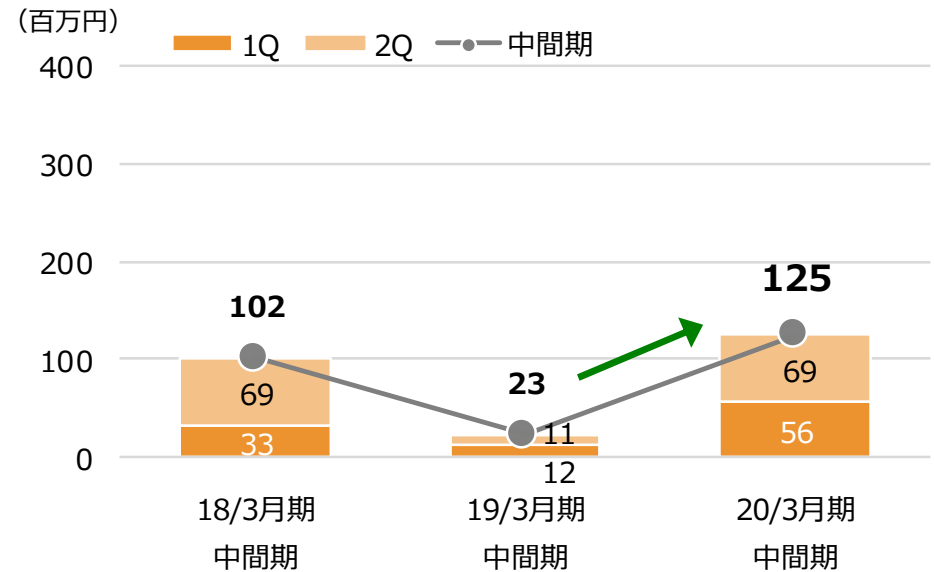


家電や電子部品用途に、セラミックス材料などを提供している事業です。

売上高



営業利益



売上高：好調に推移

- 太陽電池用導電ペーストはやや低調に推移
- デバイス材料は好調に推移

営業利益：増益

- 売上高が好調
- 営業経費の削減

太陽電池用途



やや低調に推移



セラミックス材料用途



やや低調に推移



電子デバイス用途



好調に推移



滋賀工場創立50周年式典

滋賀事業所は1969年7月15日に創立、今年で50周年を迎えました。

8月開催した式典には、多くの来賓の方々にご参列いただき、従業員一同がお迎えしました。



2019年8月
於：ホテルボストンプラザ草津

滋賀事業所全従業員が参加

霞工場新プラント建設に着工

2015年から稼働している三重県四日市事業所霞工場では、8月から新プラントの建設工事が始まっています。

2020年6月完成を目指し、安全に留意しながら工事を進めてまいります。



三重県四日市市 霞工場

2020年6月完成予定

「カイコ冬虫夏草」 新製造拠点が完成

「カイコ冬虫夏草」を製造している
(株)バイオコクーン研究所に新たな製造拠点が
完成しました。来年2月にはHACCP*
認証を取得予定です。

純国産にこだわり、安心・安全の品質を
提供してまいります。



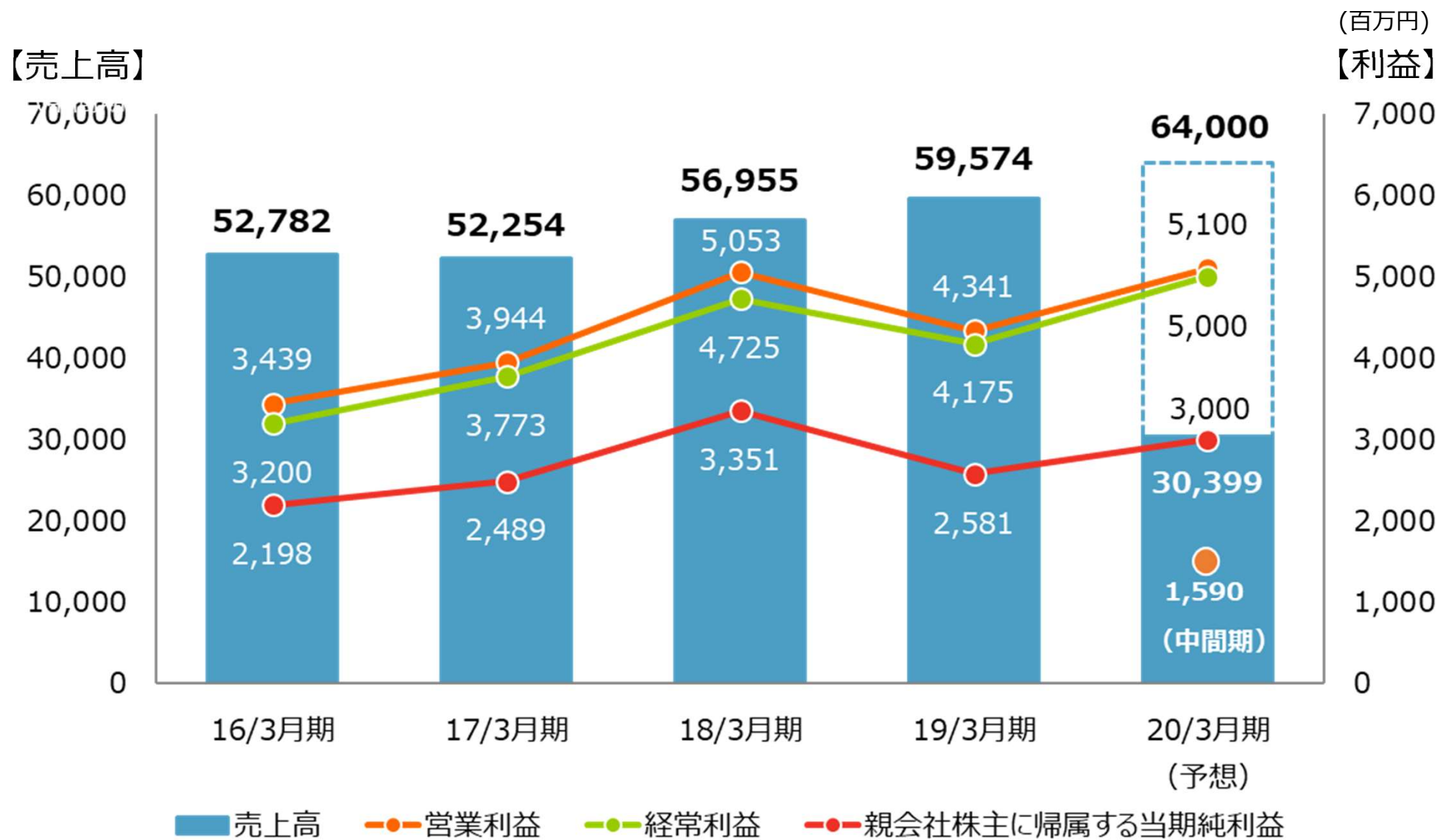
イメージ写真

2019年9月完成 棚倉工場

新社屋での製造風景

*HACCP

1960年代に米国で宇宙食の安全性を確保するために開発された食品の衛生管理の方式。
Hazard Analysis Critical Control Pointの頭文字からとったもので、「危害分析重要管理点」と訳す。



単位：百万円

	2019年 3月末	2019年 9月末	増減額		2019年 3月末	2019年 9月末	増減額
流動資産	39,361	42,514	3,153	負債	42,315	46,661	4,346
現預金	7,485	11,320	3,834	仕入債務	12,926	11,838	△ 1,088
売上債権	17,872	16,835	△ 1,036	有利子負債	24,192	30,239	6,047
たな卸資産	11,938	11,537	△ 400	その他	5,196	4,583	△ 612
その他	2,064	2,820	755	純資産	33,591	33,612	21
固定資産	36,545	37,759	1,214	株主資本	30,998	31,250	251
有形固定資産	29,724	31,390	1,666	その他の包括利益累計額	325	63	△ 261
無形固定資産	1,348	1,268	△ 80	非支配株主持分	2,266	2,298	31
投資・その他の資産	5,472	5,100	△ 372				
合 計	75,906	80,274	4,367	合 計	75,906	80,274	4,367

単位：百万円

	19/3月期 中間期	20/3月期 中間期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,371	1,946	575
投資活動におけるキャッシュ・フロー	△ 3,021	△ 3,113	△ 91
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,006	5,058	7,065
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 94	△ 60	33
現金及び現金同等物の増減額(△は減少額)	△ 3,750	3,831	7,582
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,651	11,110	3,458

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。

それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能なをもとに、当社が計画、予測したものであります。

実際の業績などは、今後のさまざまな条件、要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

第一工業製薬株式会社 総合企画本部 広報IR部 東京秘書 I Rグループ
TEL: 03-3275-0654 E-mail: d-ir@dks-web.co.jp